

【戦争を記憶するスポット】

## いとし子の供養碑

宮崎大学教育文化学部附属小学校

宮崎大学教育文化学部附属小学校では、昭和20年5月11日の空襲で12人の児童が亡くなりました。その供養のためにつくられたのが「いとし子の供養碑」です。

その日は授業の途中で空襲警報が鳴り、子どもたちは全員校庭に集合して避難を開始。江平池(今の中津瀬町付近)に差し掛かったところで空襲にあったそうです。同校では中学年用の教材「ソテツの話」として、この時の様子をまとめているので、一部を引用して紹介します。

「ふせろ。」という先生のとなるような声。女子の班は江平池の方にふせた。男子の班は、反対の田んぼの方にとびこんだ。先生の声と同時に、ざざざ、という音とどかん、という音がして地面が大きくゆれたんじゃ。そして、土がばらばら、って落ちてきたんじゃ。

[中略]  
いとし子が永久に安らかでありますように  
供養碑への誓い  
平和への道しるべ  
平和への道 いとし子の道



同校では、戦争の犠牲となった先輩達の供養をしながら、平和の大切さや命の尊さを感じ取る取り組みをしています。



慰霊碑敷地内で保管されている品々。帽子や水筒、ラッパなど、当時の生活を思わせます。

どんな物かとても興味がわきますね



無事を祈る家族の思いが伝わってきます

箱に何か書いてありますね



勲章について質問する読者リポーターの成瀬さん。出兵した人に戦後、授与されたものだそうです。



もっと詳しく知りたいと思いました

「赤とんぼ」と呼ばれた練習機。終戦間際は、この練習機にも爆弾を積んで出撃していったそうです。



## Part1 宮崎にあった特攻隊基地

現在の宮崎ブーゲンビリア空港は、かつて特攻隊が飛び立っていった海軍赤江飛行場でした。現地を訪れた読者リポーターの声も交えながら、その歴史を見つめました。



後列左から：村尾龍矢さん・成瀬優子さん  
前列左から：村上毅さん・杉村絵理子さん



## peace 70 【特集1】 戦後70年企画

# あの夏を忘れない

太平洋戦争の終結から70年の節目を迎えるこの夏。当時を知る皆さんに話を聞きながら、宮崎市にも色濃く残る戦争の記憶をたどり、今できることを考えます。



20歳で亡くなった特攻隊員の遺書が  
したためられた石碑があります。



慰霊碑の手前には、赤江海軍練習航空隊が発足したときに設置されたという門柱があります。



桜の  
植えられた  
静かな  
場所です

## 宮崎特攻基地慰霊碑

JR宮崎空港線の高架をくぐった先にあります。旧赤江飛行場から出撃して亡くなった人、宮崎県出身者で旧赤江飛行場以外の基地から発進した人をまつた慰霊碑です。



当時を物語る貴重な遺構ですね



慰霊碑の建立に尽力されてきた丸山さん。貴重なお話に、読者リポーターが熱心に聞き入ります。

## 特攻隊として、8月15日が出撃予定日でした

私がかつて、海軍の一員として沖繩で任務に就いていました。11か月の滞在中、潜水艦への爆撃や輸送船団の護衛をしていたのですが、戦局が次第に悪化し、台湾で特攻隊に編成されました。私の番が近づいた時、木更津の新鋭機「彩雲」特攻隊に転勤、果敢する800kgの爆弾をなでながら「これが俺の棺おけか」とつぶやいたものです。

出撃予定日は8月15日でしたが、待機命令が出て九死に一生を得ました。解散命令が出たのは8月23日、四国でまた戦う準備をしているさなかでした。恋も報われず、結婚もできず、子孫も残せずに亡くなっていった多くの若者たちが70年前にいたという事実を、ぜひ皆さんに知っていただきたいです。



庭野 英樹さん(89歳)

## もっと多くの宮崎の人に宮崎特攻基地慰霊碑を知ってほしい



丸山さんを囲んで学習を深める赤江小学校の子どもたち(5月21日)

この場所に慰霊碑を作ろうと動き始めたのは昭和57年のことで、その翌年の昭和58年から慰霊祭を行ってきました。戦時中の飛行場が今も使われているのは、全国でも鹿屋基地と宮崎空港だけです。数年前からは赤江小学校の子どもたちが社会科学習で現場に来てくれるようになりました。海軍赤江飛行場の歴史を、もっと多くの宮崎の人に知っていただきたいと思っています。



丸山 正行さん(88歳)

## Interview



宮崎県原爆被害者の会 宮崎支部長  
児玉 節男さん(75歳)  
宮崎市生まれ。3歳の時に家族で長崎に移った後、5歳の時に被ばく。宮崎に戻ってからは、原爆の悲劇を伝えるために各種展示や語り部などの活動を行っている。

## 二度と私たちがこのような被害者を出してはいけません

5歳の時、私は長崎で被ばくしました。稲佐山の近くにあって自宅でお昼前のこと。自宅に戻った瞬間に大きな音が鳴り響き、瓦や土などあらゆる物が落ちてきました。周囲は真っ暗になりました。すがすがしくなるにつれ、道路は倒れた木材などで跡形もなくなっているのがわかりました。

三菱造船所で働いていた父と長姉を含め、8人いた家族はかろうじて全員無事でしたが、熱風に飛ばされた長姉は背中にとひといやけどを負いました。

原爆は年寄りも子どもも関係なく無差別に人を殺傷するもの。私たちのような被害者を二度と出さないためには、原爆は決して作ってはなりません。



長崎市で万灯流しをする児玉さん

宮崎県原爆被害者の会には、被ばく経験を持つ約400人の会員がいますが、みな高齢です。今回のポスター展や私たちの語り部活動を通じて、一人でも多くの人にこの歴史を受け継いでほしい、平和であるためには何をすればいいか考えてほしいと願っています。

### 宮崎特攻基地資料展

赤江地区で過去3回開催してきた資料展を、今年は宮崎空港ビルで開催します。当時の様子を伝える写真や資料などを展示します。



■日程 / 7月22日(水)～26日(日)  
■場所 / 宮崎空港ビル

### 原爆と平和のポスター展

2歳で被ばくし、10年後に白血病で亡くなった佐々木禎子さんの一生が分かる「サダコと折り鶴ポスター」を展示します。宮崎市立図書館の関連図書と合わせて、原爆の被害と平和について考えてみませんか。



提供：広島平和記念資料館

■日程 / 8月5日(水)～17日(月)  
■場所 / 宮崎市立図書館

### 戦後70周年記念 みやざき市民のつどい

宮崎市民が戦没者を追悼し、恒久平和を祈念します。献花などの追悼・平和式典のほか、語り部による戦争のお話、朗読劇などを行います。



■日程 / 8月13日(木)  
■時間 / 10時～12時30分  
■場所 / 宮崎市民プラザ

### 黙とうを捧げましょう

右の日時にサイレンを鳴らします。恒久平和の祈念と戦没者・原爆死没者の追悼のため1分間の黙とうを捧げましょう。

①8月6日(木) 8時15分 広島原爆の日  
②8月9日(日) 11時2分 長崎原爆の日  
③8月15日(土) 12時 終戦の日

これからも戦争の歴史を受け継いでいくために必要なことは？ 宮崎特攻基地慰霊碑を訪れた読者リポーター4人に聞きました。

**成瀬さん(以下：成)** 関東から宮崎に引越してきてまだ8か月なので、宮崎のいろいろなところに行ってみたくて参加しました。  
**村上さん(以下：上)** 私も福岡から転居して宮崎に来たんです。

**村尾さん(以下：尾)** 私も鹿児島出身です。知覧特攻平和会館には何度か行ったことがあります。一年前には広島で原爆ドームなどに行き、戦争に触れる機会が多かったのですが、今日ここへ来てこういう場所を大切にしたいと思わないと改めて感じたところです。

**杉村さん(以下：杉)** 私は皆さんの中では唯一の宮崎市出身です。慰霊碑の存在を全く知らず、戦争に行かれた方のお話を直接聞くこともなかったのが貴重な機会でした。  
上：70年前の話ですが、リ



アリティがないとは思いません。今の大河ドラマもただか150年前ですからね。杉：そうですね。私のような戦争を知らない世代でも話を聞いたり訪れたりすることで感じるものがあります。歴史を伝えていく必要があると思います。  
**成**：経験者が高齢であることがこれからの大きな問題。修学旅行で沖縄に行き、し



(左から)杉村さん、成瀬さん、村尾さん、村上さん

【読者リポーター◎インタビュー】

どんなことが起こったのか  
一人一人がきちんと向き合うこと。



たことがありますが、それもやがてできなくなりますが、上：どんなことが起こったのか、一人一人がきちんと向き合っていきたいですね。  
**尾**：鹿児島には知覧があることで、他の地域より戦争のことを身近に感じやすいとは思いますが、この慰霊碑も、宮崎の人にとってそうした場合所になってほしいですね。

**成**：戦争を直接知らない親や教師に育てられた私たちが、これから親になっていきます。子どもはどう戦争のことを伝えるのかを考え、意識していかなくてはならないと思います。

読者リポーターによるレポートはコチラ



### 戦争を考えるための書籍紹介

【小学生向け】戦争にでかけたおしらせさま



宮崎市立図書館 司書 川畑 香織さん

【中学生・高校生向け】おじいちゃん戦争のことを教えて孫娘からの質問状



ニューヨークに住む高校生の孫娘からの手紙がきっかけで、かつて軍人を目指した祖父は戦争について語り出します。

[中條高德 / 著 致知出版]

【大人向け】日輪の遺産



終戦間近に密命を受けた3人の軍人は、その密命遂行のために、集められた20人の少女に非情極まりない命令を下します。

[浅田次郎 / 著 角川書店]